

# J R堺市駅周辺の発展の様子

53期生

## I テーマ設定の理由

私は、去年JR阪和線・堺市駅前の超高層ツインタワー・ベルマージュ堺の完成とともに引っ越してきた。天王寺駅まで快速でひと駅、8分。とても便利だ。ところがつい最近土地の人から「この辺りは、昔は刑務所の敷地内で、豚小屋や畑もあった。」と聞き、驚いた。そういえば葬祭場や墓地まである。昔は辺鄙へんぱだったと思われるこの土地が、どの様に発展して現在に至ったのかを調べようと思った。

## II 研究方法

- (1) 文献調査      インタビューに備えて図書館で資料をさがす。  
校区の小学校の記念誌などで、この地域の情報を得る。  
市役所の関係課で資料を手に入れる。
- (2) フィールドワーク      JR堺市駅周辺をよく歩き、注意深く街並み調査する。  
インタビュー出来そうなお店をさがしておく。
- (3) 聞き取り調査      市役所の関係課、JR堺市駅、商店街の人々にお話を聞く。  
商店(50店舗を目標)に聞き取り形式のアンケート調査をする。

## III 研究内容

- (1) 文献調査      JR堺市駅周辺はどのような地だったのか。

堺は主として土居川(現阪神高速15号線)の西側で発展して来た。そこから反対側1.5km程東にJR堺市駅がある。花田口から東にのびる長尾街道は、古代は奈良へ物資を運ぶ重要な道だった。その街道沿いに、伝反正天皇陵、方違神社、向泉寺(伝行基開創)、境王子跡(「熊野詣」の時参詣しながら向かう九十九王子の一つ)などがある。

— 平安時代頃までは、きっと人通りも多かったのだろう —

明治末期までずっと一帯は田や畑で、春は一面菜の花畑になった。

明治中頃      王子ヶ飢(境王子跡付近)に個人の埋葬場が出来、村に寄付後、火災発生。

明治43年      現在地に市の埋葬場出来る。

大正9年      大阪刑務所移転して来る。

昭和4年      阪和電鉄開通。

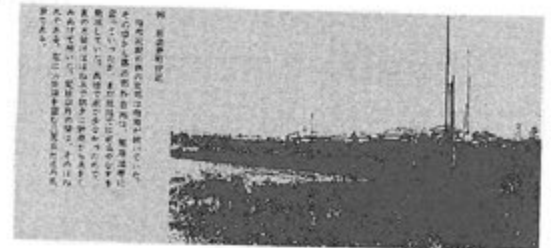
昭和7年      軍隊が金岡村に移転して来る。  
金岡駅出来る。

昭和21年      進駐軍やって来る。

(~32年まで)

昭和40年      金岡駅から堺市駅に改名。

戦後急速に、まわりの田畑、池、沼が埋めたてられ、住宅地となっていった。



↑ 昭和初期の堺市駅周辺

(2) フィールドワークによるJR堺市駅周辺の街並み調査(にぎわい度)

西側(主に平成11年に終了した堺市駅前開発事業の対象区域)

- ・ベルマージュ堺(43F)が駅前のシンボルタワーとなっており、周りは計画的に造られ、広々と明るく発展している様に思える。
- ・周辺の大きい道は20m幅。駅前からは道が何本も分かれています、どの道にも店が並んでいる。
- ・バス停、タクシー乗り場がある。
- ・スーパー、コンビニ、銀行、ファーストフード店、パチンコ店など、東側より大きい店舗がある。
- ・再開発から外れた所では、道幅は狭く、古い店が多い。以前、すごい勢いでにぎわっていたという市場は、現在街道に面した3店舗を残して閉鎖されている。
- ・どの路地裏にも、営業してるのかいないのか分からない店がまばらに並んでいる。
- ・駅から西に出て来た人は、そのままベルマージュ堺の2Fに入っていく、エレベーターかエスカレーターで降りてくる人が多い。雨の日はなおさらだ。

～私達にとって、駅の1F部分と2F部分から何本も道がついているのは、混まないで歩きやすく便利だが、店の人にとっては人が分散し、駅前には人通りの少ない道となり、よくないと思う～

東側(今まで一度も大がかりな開発はされていない)

- ・商店がギッチリ軒を並べ、お店の人の姿が近くに見えるので、ぬくもりや親しみを感じる。実際、聞き取り調査もしやすかった。
- ・長尾街道は急に道が狭くなり、長い商店街が続く。道幅は昔のままで。長尾街道と交わる南北の少し広い道路沿いにも商店街がある。
- ・両側の店が商品を出すと車は通れない。
- ・自転車の利用者が多く、商店街を素通りしていく。
- ・店主に高齢者が多い。殆ど個人商店で、そこに居住されている。
- ・看板に「ハギレ、氷・煉炭、古本」と書かれたまま戸を閉めて年月のたった店もある。
- ・路地を入ると西側と同様、そこにもより古い店、工場があった。昔「はね木」によって田畑の灌水を行ったという井戸跡があちこちにあった。



↑ JR堺市駅周辺地図



↑ 多彩な都市機能を持つベルマージュ堺



↑ 駅前東商店街

JR堺市駅周辺は、てっきりにぎわっているもの、発展しているものと思込んでいた。しかし、事情は違うようだ。西側も東側も個人商店の利用者は少なく、スーパーに入っていく人が多い。通行量から言えば商店の数が多過ぎる。きっとそんなににぎわった時期があった筈だ。いつ頃だったのだろう。又、何故それが続かなかったのだろう。

(3) インタビューによるJR堺市駅周辺の移り変わりの様子

堺市役所再開発課 北口さん、駅の西側と東側で古くからお店を出しておられるお米屋さん、薬局屋さん、八百屋さん達にお話を伺いました。

① 刑務所が現在地に移されて来た経緯(北口さん)

大正時代になって、大阪刑務所を大和川からこちらの方へ持って来る話が出た。当時の肥料は人糞で、お百姓さんにとって、それをお金で買って手に入れるのは大変な苦労だった。その話が出た時、この辺に田畑を持っていたお百姓さん達は「刑務所は人が多いのでその排泄物をもらってもいい」と考える様になり、大正9年に移動が終わった。もともとこの地に人は住んでいなかった。

② i) お米屋さん(76才)

この店を開いたのは私の親父で大正9年。田んぼで百姓をしていたが、それだけでは生活が大変だった。私の母が「大阪から監獄が移って来るというんで囚人達が前の道をレンガを運んでいた。」と言っていた。刑務所が出来ることについては、反対する人もあればそれによって仕事につける人や商売の成り立つ人もあって、半々という具合だった様だ。役所としても税収がある。

昭和の初め頃、こちらから西を見ると刑務所があり、その前に看守の官舎があり、その向こうに方違いさんののぼりが見えていた。まわりは一面ずっと田畑だった。まもなく官舎の前に店が数軒出来た。時々、囚人の脱走があってサイレンが鳴っていた。駅からこちら(東)は十軒長屋があるだけではね木がよく見られた。南の方には、仁徳天皇陵の森が見えていたが、それが見えなくなったのは戦後だ(まわりが住宅に変わっていった)。



▼昭和7年頃の町並み

この辺は軍隊が来てから変わり始めた。金岡駅も出来、軍隊が農道を広げ、長尾街道以外の道が初めて出来た。終戦近くになって、私鉄の阪和線が国鉄に変わり、夜はひっきりなしに和歌山から軍事物資を運んでいた。

うちの店が一番良かったのは昭和40年前後。村には7、8軒の米屋があったが、食糧営団から公団に変わっていった時代にうち一軒だけになって。配給米業務していた頃だ。その頃には、日本初の金岡公団住宅が出来ていて、新金岡団地も出来始めた。お客さんが松原方面からも来ていた。地下鉄が出来て、浅香山の通りと地下鉄の沿線が急激に変わり、この辺がとり残された。団地の人が地下鉄を使う様になり、人通りが減った。結局、人通りが多かったのは昭和40年～50年代だ。刑務所があって、やき場があって、軍隊があって、その跡が警察学校、結核療養所と大きな施設ということもあって、昔から発展しない所だった。



▼昭和40年前後の町並み

昔は、南海本線の堺駅、戦後は高野線の堺東駅が発展しているが、ここはすぐ大阪に出られる分、買い物は大阪でする人が多く、それ程大きな発展はしていない。

ii) 葉屋さん (72才)

ここに店を出したのは昭和23年。ここから国鉄浅香駅が見えた。東商店街は北側はまだ店が出来ず、ずっと田んぼでカエルがうるさかった。前の道を南海バスが走っていた。バス停はなく、手を挙げると止まってくれた。戦災にあった人や疎開者達でこの辺の人口は一時増えた。軍隊が去った後、進駐軍が来て子供達がチューイングガムをねだり、進駐軍のもとで働く日本の若者もいた。昭和30年頃にはもう今の様に商店が立ち並んでいた。この店が一番良かったのは、昭和40年～オイルショック (昭和49年) まで。それが下降線になった理由は、

- 同業者が増えたこと。(うちの商売は、バブル関係ないんで)
- 地下鉄が出来て、客足が減ったこと。……将来? 変わらないと思う。

iii) 八百屋さん (60才、閉店に追い込まれた市場で45年間お店を出しておられた) あれ市場が出来たのは昭和27年。多い時で70軒以上入っていた。当時、市場はともはやっていて、行列が出来て身動き出来なかった。一日16時間以上働いていた。年末など、昼頃来たら何もない程だった。

市場は、綾之町・堺東とこの3つしかなかったもので、遠く住吉の方からも人が集まった。まもなくスーパーが出来たが、それ位では影響なかった。逆に店員が値段を比べに来ていた。昭和40年～50年代位まで良かった。

- 地下鉄が出来たこと。
- まわりに競合店が多く出来たこと。
- 対面式の買い物をきらいな最近の風潮。

今ではほとんどの店がやめてしまっている。時の流れを感じている。

(4) アンケート調査 他の店はどうなのだろう。

Q.

- ① 出店されたのはいつですか。  
 ② お店が一番良かったのはいつですか。  
 ③ 駅前再開発の影響はありましたか。  
 ④ 今後どうなると思われますか。

(新規出店の多いベルマージュ内は除く)

昭和30年代には、ほぼ現在の様にお店がたち並んでいたと聞くので、昭和40年以降の出店は店主の入れ替わりが考えられる。昭和40～50年代までは人通りが多かったということだが、そんな中でもお店をあげ渡す人もあったのだ。駅前再開発を期待して出店した店も多そうだ。



↑30年以上販わい続けた市場「駅前デパート」。今、奥は葬儀屋さんが買い占め倉庫にしている。交渉が長びいている間に市が葬祭場をすっかり最新の設備の整ったものに建て替えた。

- 1つの栄枯盛衰を見た -

A.

①について

S.	～30年に出店	8店舗
31年～40年	”	8 ”
41年～50年	”	8 ”
51年～60年	”	8 ”
61年～H.7年	”	5 ”
8年～12年	”	10 ”
		計 47店舗

②について、回答の多い順に。

- 1位 いい時は一度も無し。
- 2位 地下鉄が出来るまで。
- 3位 バブルの頃 (衣料品店が多い)。
- 4位 オイルショック前まで。

③について

- 銀行 …もちろん影響あり。  
 堺市駅 …確かな手ごたえあり。  
 ケーキ屋さん…影響あり。  
 あとは殆ど「影響なし、でも駅前の景観は良くなった。」ということだった。

④について、高齢の店主と若い店主とではっきり差がみられた。

高齢の店主 (消極的)

- ・余り変わらないと思う。
- ・自分の代はこのままで終わるだろう。
- ・行政が何とかして欲しい。

若い店主 (積極的)

- ・何とかしたい。
- ・西側の活気を東側にももらいたい。
- ・駅の西側と東側でお互いに頑張って共存共栄していきたい。

(5) JR堺市駅年度別一日乗車人員の移り変わり

地下鉄御堂筋線の開通は、JR堺市駅にどの位の影響があったか。

年号	乗車人員/日	地下鉄沿線の開発状況	年号	乗車人員/日	地下鉄沿線の開発状況	
S 38	12,748	新日鉄花田住宅出来る 公団住宅出来る 新金岡団地出来始める 公団浅香山住宅出来る	S 58	18,868	地下鉄開通 大型スーパー出来る バブルはじける	
40	14,756		60	18,482		
42	17,696		62	14,669		
44	21,540		H 1	14,225		
46	22,512	3	14,277			
48	24,638	常磐浜寺線出来る	5	13,966		
50	25,704	あびこ大橋完成 (大阪とつながる)	7	13,878		
52	23,786		9	13,862		
54	21,468		10	11,927		
56	19,967		11	12,225		堺市駅前再開発終了

(堺市統計書より算出)

～JR堺市駅の利用客数が、地下鉄御堂筋線沿線の開発にずいぶん左右されていたことが分かる。地下鉄は堺市駅から1.5km以上東側に出来ている。JR堺市駅やその周辺の商店街のにぎわいは、遠来のお客にたよっていた。戦後あちこちで住宅が増えていたがJR堺市駅周辺では住宅ブームはおこらなかったと言える。やはり町の活性化は地元の人達でなければならない。地元の人口を増やさねばならないと思った。～

(6) 北口さんのお話は、今回の私の研究テーマをしめくくって下さるものだった。

昭和に入って鉄道が通り、金岡駅が出来、駅前が栄え出した。駅前の刑務所用地で空き地だった所に日本住宅公団が駅ビルを建てた。地元民の要望で金岡駅から堺市駅に変更。快速が止まる様になると一帯が住宅地が変わっていった。堺市としては、駅前にこんな大きな施設があるので大きな道路や建物を造るにも思う様にならなくなった。昭和60年になって刑務所の老朽化で建て替えの話が出た時、どうしてもこの一等地を何とかしたかったので、国と交渉した。結局、刑務所を少し高層化することによって生まれる余剰地を、堺市が買い取りこの辺一帯の再開発にとりかかった。刑務所の土地は35haから20haまでに縮まった。刑務所の建て替えが終わると葬祭場を違和感の

ない最新のものにし、駐車場、20m道路、勤労者福祉会館、ベルマージュ堺が出来た。

この再開発の目的は人口の呼び戻しだ。少子化の為、昭和40年代から小学生の数が減って来た。そこで計1000戸近い住宅を計画した。この辺の商店街の活性化が計れるし、市にとっても税金面で良い。

この再開発の一番良いところは、地元の全町会長、商店街代表の方々、みんなと話しあったこと。だから葬祭場という施設もこの地に再び出来た。駅前の超高層ビルはみんなの願いだった。

将来は平成14年には墓地は他所へ移し、ベルマージュ堺の2倍程の敷地でバラを中心とした4haの公園が出来ると予定。そして駅前東商店街の活性化。3つぐらいある商店街が1つにまとまる話も出ている。民間で力を合わせ、そこに行政が手を貸す、という形で手を入れていきたい。

#### IV 結 論

駅前西側は、駅前でありながら発展の仕方が遅れていたが、刑務所の建て替えをきっかけに一挙にイメージチェンジしてしまった。大発展して出来上がった街のようだ。土地が国や市のものだったのでスムーズに計画が実行されたのだ。もうすぐ広い公園も出来るし、更ににぎわうだろう。まわりはまだまだ開発できる。

一方、駅前東側は西側より早く商店街になっていたが今は活気がない。もう地下鉄が出来たことは理由にならない。少々遅くても、車でスーパーに出掛ける人が多いのだ。道幅が広くて駐車場があることが条件だ。道幅が狭く、車輛進入禁止のこの商店街は今では行政の力が必要だ。地元の人口を増やし、「物価が安くて良い」という消費者側の意見も大事にしてもらい、お店にとってもお客にとっても良い街になってほしい。

#### V 総 括

私は、JR堺市駅周辺は発展していると思っていた。天王寺駅に近く、快速停車駅であること。歴史的に有名な堺、その堺の駅前であること、などが理由だ。現実には少しキビシイものだったので、聞き取り調査しにくく思ったこともあった。しかし調査をしていくうちに、商店街の人々が一生懸命にたくましく働いてこられた姿が伝わって来た。決して環境を嘆いたり、愚痴ったりはされない。

刑務所や葬祭場、墓地といった施設はなくては困るものだが、近くにあっても不気味だ。今回のベルマージュ堺を超高層化したのは良かったと思う。住んでいると、下界など気にならない。今回は商店街を取り上げたが、住民側から見ると少しずつ発展していると感じた。



↑堺市役所よりも美しくなった大阪刑務所。入るならここ!!と決めたが、条件を満たすのも難しい。

“入所資格：26才以上、凶悪犯”

#### VI 参考文献

「目で見る堺の100年」 郷土出版社  
近くの小学校の記念誌